

型枠製品カタログ

ステンレス型枠 / BENKEI



ステンメタル72[®]

リブ厚72mmだから、
耐力が大幅UP。

高品質な仕上がりに

ステンメタル72は、SUS430を面板に使用しているため、劣化が少なく転用回数を選びません。また、整備においては従来のようにサンドブラスト作業をしないため、表面にざらつきがなく、綺麗な仕上がりとなります。

安心の高強度と機能性

従来の鋼製型枠のリブの厚みは55mmですが、ステンメタル72ではリブの厚み72mmを採用しています。これにより断面性能が大幅にアップ。従来のメタルフォームの2倍以上の性能を持ち、木製の型枠との併用も可能にしました。また、専用のバタ材と組み合わせる事により、セパレーターの本数を減らす事が可能です。



各サイズ幅での断面性能

メタル幅	A (cm ²)	I (cm ⁴)	Z (cm ³)
900	31.72	155.12	28.12
800	27.76	133.84	24.16
700	25.76	129.14	23.80
600	21.80	108.28	19.88
500	17.84	87.90	16.02
400	15.84	82.58	15.60
300	11.88	61.44	11.64
200	9.88	54.15	10.98
100	5.92	33.28	7.06

面板	SUS430	t=2.0mm
リブ厚	SS400	t=3.2mm

各サイズのメタルを
900幅に換算した断面性能

メタル幅	A (cm ²)	I (cm ⁴)	Z (cm ³)
900	31.72	155.12	28.12
800*	31.23	150.57	27.18
700	33.12	166.04	30.60
600	32.70	162.42	29.82
500	32.11	158.22	28.84
400	35.64	185.81	35.10
300	35.64	184.32	34.92
200	44.46	243.68	49.41
100	53.28	299.52	63.54

A=31.23cm² I=150.57cm⁴ Z=27.18cm³

*表より800サイズが最も断面性能が小さいのでメタルの計算において800サイズの値を使用する。

横幅サイズ300のリブ72mmと
55mmの断面性能の比較

リブ高さ	A (cm ²)	I (cm ⁴)	Z (cm ³)
55	9.78	26.39	5.86
72	11.88	61.44	11.64

リブ厚72mmだから、
木製型枠との併用が可能。

木製型枠を併用することでコスト削減に
転用回数の少ない異形型枠（1柱のみドレン形状が違
うなど）の場合木製型枠を組み合わせることによりコ
スト削減になります。

リブ厚72mmのため、木製型枠と併用が容易
従来の鋼製型枠のリブの厚みは55mmですが、ステ
ンメタル72ではリブの厚み72mmを採用しているため、
木製型枠と併用時バタ材側もしくは型枠側に加工の必
要がなく容易に取り付け可能です。

メタル+木枠もボルトで緊結
メタル同士と同様に、メタルと木製型枠もボルトで緊
結するため木製型枠部分の仕上がりに影響がでる事
がありません。

木製型枠にもメタル用骨材（OBトラス）を
使用し強度を確保

木製型枠部分にもメタル用骨材（OBトラス）を使用
することで強度を確保し、骨材（OBトラス）と木製型
枠を専用の金具で固定することで建て込み時に外れ
ることなく施工できます。



木製型枠との併用例 ドレン部分



木製型枠との併用例 外部面



木製型枠との併用例 内部面



木製型枠との併用例 円形



木製型枠との併用例 梁底

型枠製品

OBトラス[®]

強度と施工性を両立

強度と施工性を両立

OBトラスは100×50の溝型鋼を抱き合わせて製品化した部材です。中央のすき間は20mmあり、5分のボルトも容易に通すことができます。これにより弊社の型枠とOBトラスを使用する事で、セパレーターのピッチが縦方向@900・横方向@1500の取付間隔を可能にしています（条件等により変わります）。



ASブラケット[®]

支保工設置が困難でも大丈夫

施工手間の軽減

ASブラケットは、従来、H鋼を用いたブラケット施工時の問題点を解決したシステム機材です。形状を固定化して組立手間を減らし、アンカーボルトの施工精度や配筋ピッチにも対応しています。

3段階の長さ調整

本体に追加する事により、3段階の張り出し長さに変化できます。現場の大きさに合わせて長さや本数を調整する事で、最適で無駄のない施工を可能にします。

※基本サイズの1連あたりの重量は、約610kgになります。1回目の延長で+410kg、2回目の延長でさらに+530kg加算されます。



自在トラス®

梁底型枠も地上で組めるため安全

圧倒的な対応力

自在トラスはあらゆる傾斜部分に使用することができる機材です。どのような角度と寸法にも対応し、曲線形状の躯体でも施工が可能です。

安全性と施工性

地組みする事で高所での作業を大幅に減らす事ができます。また傾斜部における水平力を確実に支持するものです。

多様な現場に使用

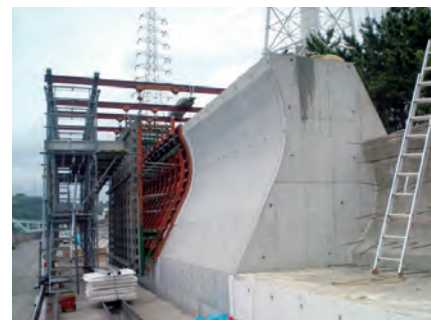
トンネルの支保工や擁壁、ブラケットの代わりなど、様々な現場で活躍しており、多くの実績があります。



2段勾配の自在トラス



梁底トラス2連結



防潮堤



R形状の自在トラス



トンネル部分



フレームタイプ

ASホルダー[®] (箱抜用パイプ取付治具)

特許も取得、迅速かつ高精度なシステム

抜群の施工性と精度の向上を実現

従来だと鉄筋（段取り筋）に溶接する等の作業手間とコンクリート打設時に設置位置がずれてしまうといった問題を全て解決したシステムです。地組みして設置するため、安全にも優れており脱型も容易におこなえます。

安心の証明

NETISや特許にも登録された商品です。

3種類の直径に対応

可変式にした事により、3種類の直径に対応する様になり、転用への対応が幅広くなりました。また、OBトラスとの組み合わせにより、様々な深さにも対応が可能です。



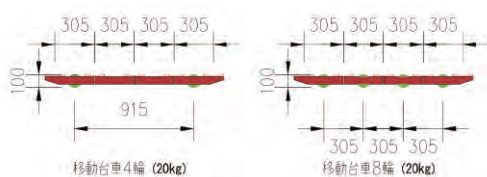
移動台車

型枠を載せたままでもラクラク移動

安定した移動を可能に

ジャッキの設置箇所は幅1200（メートル、インチ）まで30cm単位で対応しております。1台あたりの耐荷重も4輪タイプ（耐荷重1200kg）と8輪タイプ（耐荷重2400kg）があり、現場に合わせて使用していただけます。

移動台車本体に単クランプをつけることが可能で、単管を設置することによってラインの確保が出来ます。BOXカルバートなども、移動可能で支保工のバラシなしで転用することが可能です。



自在トラスブラケット

跳ねだし長さ 3m 以上も可能

圧倒的な対応力

自在トラスブラケットは組立式の鋼材ブラケットです。部材の連結、斜材の追加により跳ねだし 3m 以上も可能です。

耐荷重は約 5 ～ 6t (トラス1本あたり)

トラス1本あたりの耐荷重は約 5 ～ 6t あり、トラスの取付けピッチ及び斜材本数を調整することで様々な現場で使用可能です。

多様な現場に使用

通路や河川などの下から足場等を設置できない箇所で活躍します。



マンション改修工事



煙突解体工事



下部工新設工事

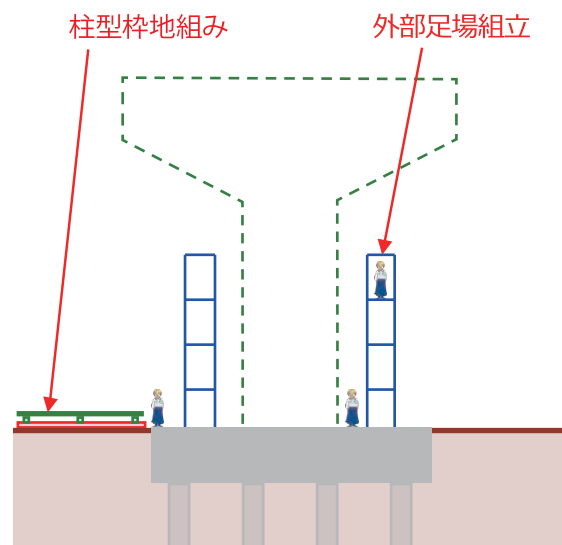
施工手順

1. 柱型枠（1ロット）の地組みを行う

- 基礎に墨出しを行い、外周に作業のための足場を設置する。
- 周辺に型枠の地組み場とクレーン車の配置場を確保し地組みを行う。
- 枕木を並べ、ステンメタル・OBトラスを組み立てる。
- 吊り上げるための金具も取り付けておく。



地組みの状況（地組みの目安は約10～15㎡/人）

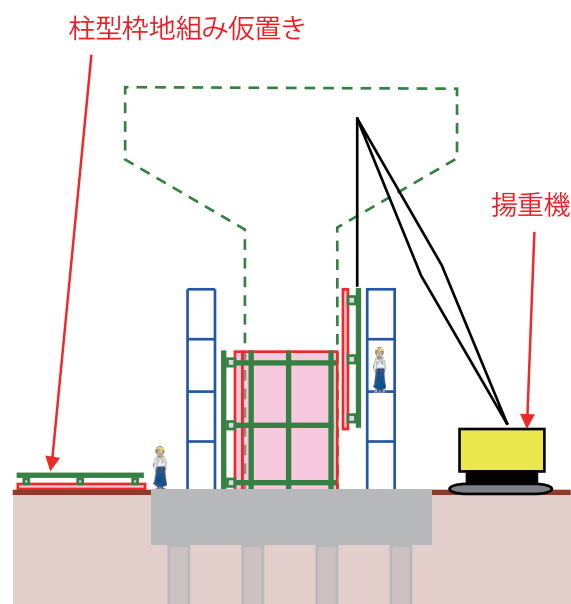


2. 柱型枠（1ロット）の建て込みを行う

- 地組み完了後、クレーンにて吊り上げ、所定の場所に設置する。
- 所定の場所に設置が完了したら、4面それぞれを繋ぐまでチェーンブロックやサポートで仮固定しておく。



建て込みの状況（建て込みの目安は約30～50㎡/人）

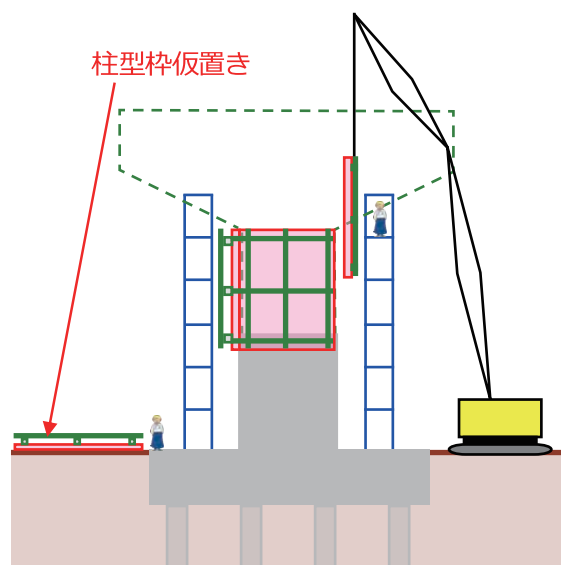


3. 最終ロットまでの建て込みを行う

- 1ロット目のCon打設が完了したら存知日数経過後に脱型を行う。
- 脱型した型枠は、清掃して仮置きしておく。
- 次のロットへの施工準備が完了次第、仮置きしていた型枠を建て込んでいく。
- 以降同様の手順で最終ロットまで進める。



2ロット以降で型枠下部を支えるアングルブラケット



4. ASブラケットの設置を行う



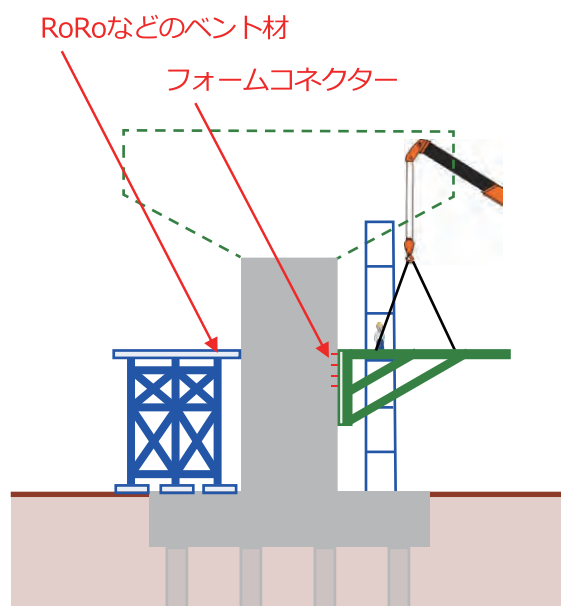
フォームコネクタ

- 最終ロットの施工の際にASブラケットを固定するためのフォームコネクタを仕込んでおく。



ASブラケット取付状況

- 型枠と同様に地組みし、仕込んでおいたコネクタにハイテンションボルトで固定していく。

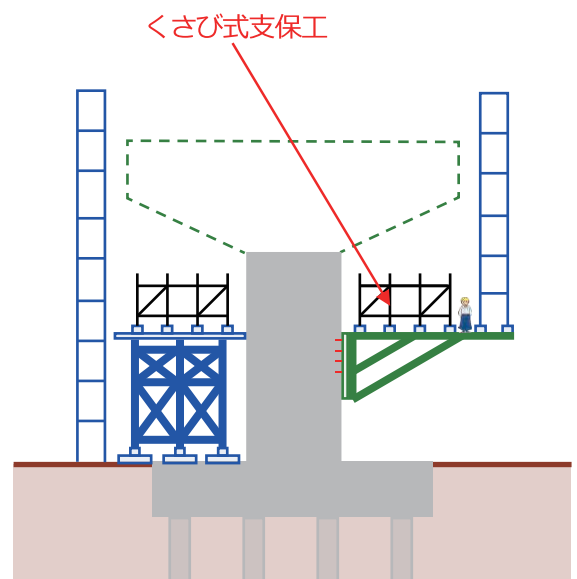


5. くさび式支保工材の設置を行う

- ASブラケットやベント材を設置してH鋼の敷設が完了したら、自在トラスを載せるための、くさび式支保工材の組み立てを行う。
- 現場によってはくさび式支保工も地組み（大組）をして吊り上げ、所定の位置に設置する場合もある。



くさび式支保工組立状況

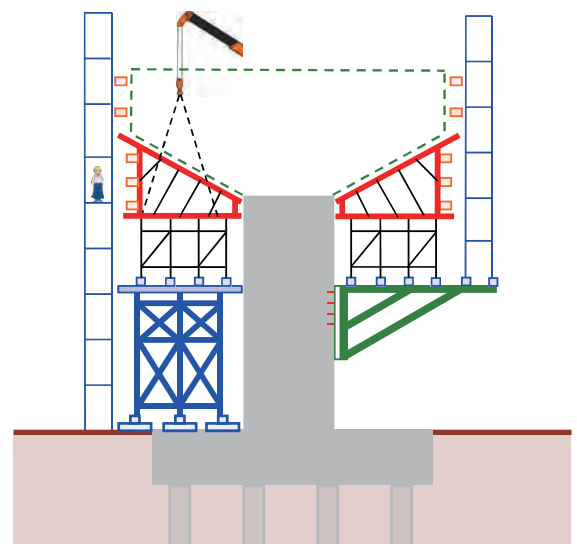


6. 自在トラス（梁底型枠）の設置を行う

- 柱型枠と同様に地組みをして仮置きしておく。
- あらかじめ設置する部分のレベルを確認しておく。
- 自在トラスに吊ピースを取り付け吊り上げる。



自在トラス吊り上げ状況



7. 梁正面型枠の設置を行う

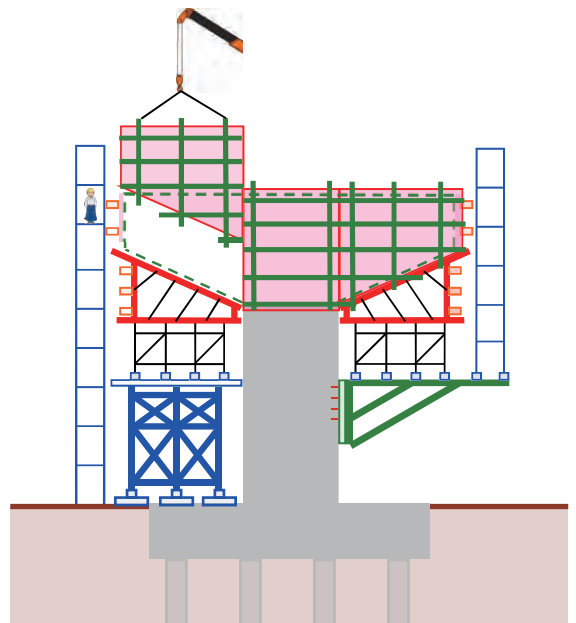
- 柱型枠等と同様に地組みを行う。
- 吊金具を取り付けてクレーンで吊り上げ、梁底型枠を挟み込む様に設置する。



吊り上げ状況



建て込み状況



8. タイロットで型枠同士を引っ張り固定する

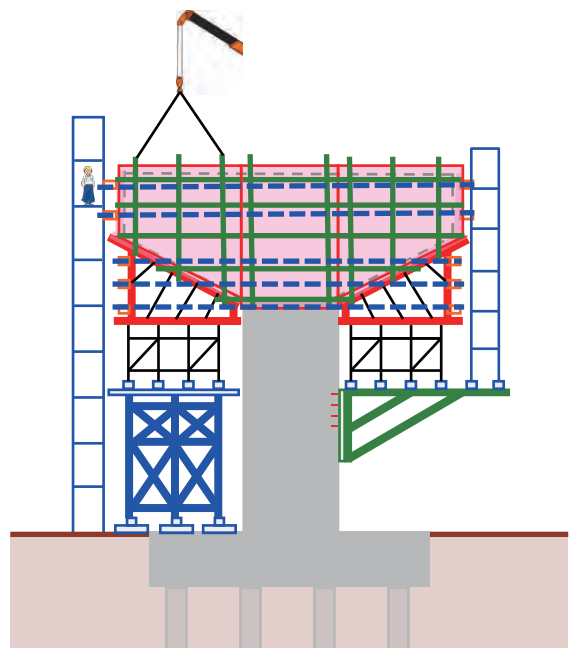
- 挟み込んだ型枠同士を、タイロットで繋いで締め込み固定する。
- 妻側方向の様に、距離が長い場合には、OBトラスの端部に専用金具を取り付け、タイロットで締め込む。



タイロットで締め込んだ部分



OBトラスから締め込んだ部分



9. ASホルダー（支承箱抜型枠）の設置を行う

- 地組みして、シース管まで設置しておく。
- クレーンにて吊り上げる。
- 正面型枠やOBトラスに設置して固定する。



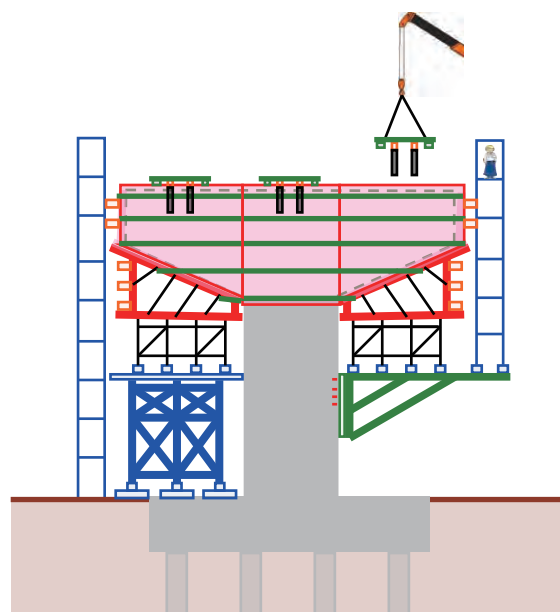
地組み状況



吊り上げ状況



設置状況

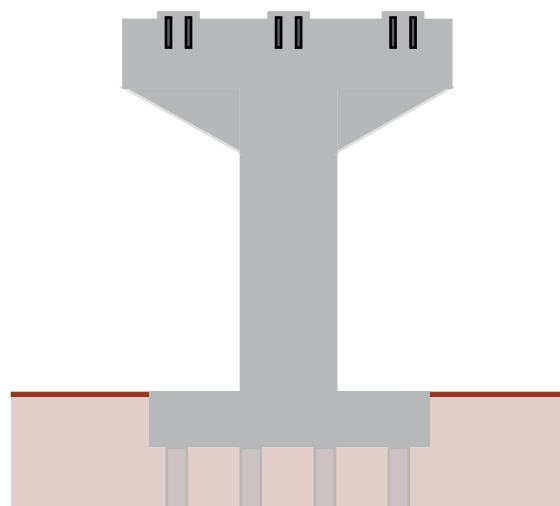


10. 各部解体して完成

- タイロット、ボルト類を緩め、組んだ時とは逆の手順で取り外してゆく。
- 自在トラス等の梁底部は、大ばらしの際には躯体を傷つけない様に
- 注意する。



自在トラスの大ばらしの状況



部材表

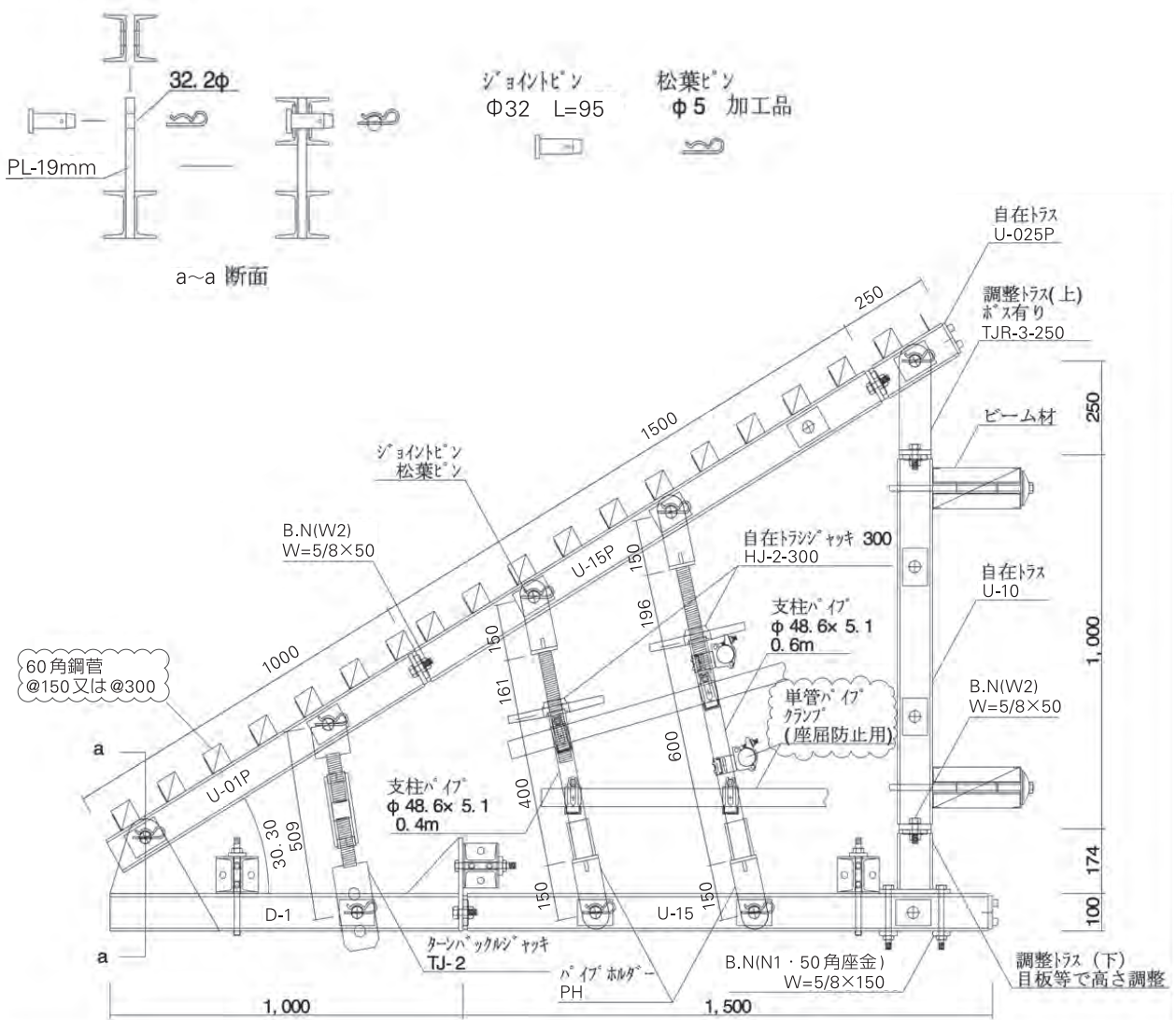
ステンメタル72

幅 (mm)	形式・寸法 (mm)	資材コード	単重 (kg)	幅 (mm)	形式・寸法 (mm)	資材コード	単重 (kg)
900	900×1800×72	F72-9018	60.2	350	350×1800×72	F72-3518	25.2
	900×1500×72	F72-9015	51.3		350×1500×72	F72-3515	21.0
	900×1200×72	F72-9012	41.0		350×1200×72	F72-3512	16.8
	900×900×72	F72-9009	31.7		350×900×72	F72-3509	12.6
	900×600×72	F72-9006	21.8		350×600×72	F72-3506	8.4
	900×300×72	F72-9003	11.1		350×300×72	F72-3503	4.2
	900×100×72	F72-9001	6.7		350×100×72	F72-3501	1.4
800	800×1800×72	F72-8018	54.8	300	300×1800×72	F72-3018	21.6
	800×1500×72	F72-8015	45.6		300×1500×72	F72-3015	18.0
	800×1200×72	F72-8012	36.5		300×1200×72	F72-3012	14.5
	800×900×72	F72-8009	27.4		300×900×72	F72-3009	11.1
	800×600×72	F72-8006	18.5		300×600×72	F72-3006	7.4
	800×300×72	F72-8003	9.8		300×300×72	F72-3003	4.5
	800×100×72	F72-8001	6.0		300×100×72	F72-3001	2.5
700	700×1800×72	F72-7018	48.6	250	250×1800×72	F72-2518	21.0
	700×1500×72	F72-7015	39.9		250×1500×72	F72-2515	17.5
	700×1200×72	F72-7012	32.0		250×1200×72	F72-2512	14.0
	700×900×72	F72-7009	25.5		250×900×72	F72-2509	10.5
	700×600×72	F72-7006	16.0		250×600×72	F72-2506	7.0
	700×300×72	F72-7003	8.5		250×300×72	F72-2503	4.0
	700×100×72	F72-7001	5.2		250×100×72	F72-2501	2.0
600	600×1800×72	F72-6018	41.2	200	200×1800×72	F72-2018	18.0
	600×1500×72	F72-6015	34.2		200×1500×72	F72-2015	15.0
	600×1200×72	F72-6012	27.4		200×1200×72	F72-2012	12.0
	600×900×72	F72-6009	21.7		200×900×72	F72-2009	9.6
	600×600×72	F72-6006	14.0		200×600×72	F72-2006	6.5
	600×300×72	F72-6003	7.4		200×300×72	F72-2003	4.5
	600×100×72	F72-6001	4.5		200×100×72	F72-2001	1.5
500	500×1800×72	F72-5018	33.8	100	100×1800×72	F72-1018	12.5
	500×1500×72	F72-5015	28.5		100×1500×72	F72-1015	10.5
	500×1200×72	F72-5012	22.8		100×1200×72	F72-1012	8.8
	500×900×72	F72-5009	17.8		100×900×72	F72-1009	6.7
	500×600×72	F72-5006	11.5		100×600×72	F72-1006	4.5
	500×300×72	F72-5003	6.2		100×300×72	F72-1003	2.5
	500×100×72	F72-5001	3.8		100×100×72	F72-1001	1.5
400	400×1800×72	F72-4018	28.8				
	400×1500×72	F72-4015	24.0				
	400×1200×72	F72-4012	19.2				
	400×900×72	F72-4009	14.4				
	400×600×72	F72-4006	10.8				
	400×300×72	F72-4003	5.0				
	400×100×72	F72-4001	3.0				

自在トラス

幅 (mm)	形式・寸法	資材コード	単重 (kg)
自在トラス端部		ZT D-1	37.5
自在トラス本体 (プレート無)	端部用 L=1000	ZT U-01	22.1
自在トラス本体 (プレート付)	端部用 L=1000	ZT U-01P	22.9
自在トラス本体 (プレート無)	L=250	ZT U-025	8.0
自在トラス本体 (プレート付)	L=250	ZT U-025P	9.0
自在トラス本体 (プレート無)	L=500	ZT U-05	12.8
自在トラス本体 (プレート付)	L=500	ZT U-05P	13.6
自在トラス本体 (プレート無)	L=750	ZT U-075	18.0
自在トラス本体 (プレート付)	L=750	ZT U-075P	18.5
自在トラス本体 (プレート無)	L=1000	ZT U-10	23.2
自在トラス本体 (プレート付)	L=1000	ZT U-10P	24.0
自在トラス本体 (プレート無)	L=1500	ZT U-15	33.4
自在トラス本体 (プレート付)	L=1500	ZT U-15P	34.6
自在トラス本体 (プレート無)	L=2000	ZT U-20	43.9
自在トラス本体 (プレート付)	L=2000	ZT U-20P	45.0
自在トラス ジョイントピン		ZT JP	2.0
自在トラス 松葉ピン		ZT JPS	0.0
ターンバックル ジャッキ	125 ~ 155 両端ピン止め	ZT TJ-1	7.5
ターンバックル ジャッキ	245 ~ 405 両端ピン止め	ZT TJ-2	10.0
自在トラス ジャッキ 300	片側ピン止め	ZT HJ-2-300	8.0
自在トラス ジャッキ 600	片側ピン止め	ZT HJ-2-600	10.0
パイプホルダー	150 自在トラスJと組み合わせ	ZT PH	3.0
パイプホルダー (ロング)		ZT PHL	4.0
プレス		ZT FBJ-500	0.9
プレス		ZT FBJ-1000	1.8
プレス		ZT FBJ-1500	2.7
プレス ターンバックル		ZT TB	4.0
豆ジャッキ		ZT 豆ジャッキ	3.0
調整トラス (上) ボス付	穴芯まで L=250	ZT TJR-3-250B	5.5
調整トラス (下) ボス無	L=100	ZT V 100	9.0
調整トラス (下) ボス無	L=150	ZT V 150	9.0
調整トラス (下) ボス無	L=175	ZT V 175	9.0
支柱パイプ	L=200	ZTP 0.2m	1.1
支柱パイプ	L=250	ZTP 0.25m	1.4
支柱パイプ	L=300	ZTP 0.3m	1.7
支柱パイプ	L=350	ZTP 0.35m	1.9
支柱パイプ	L=400	ZTP 0.4m	2.2
支柱パイプ	L=450	ZTP 0.45m	2.5
支柱パイプ	L=500	ZTP 0.5m	2.8

幅 (mm)	形式・寸法	資材コード	単重 (kg)
支柱パイプ	L=550	ZTP 0.55m	3.0
支柱パイプ	L=600	ZTP 0.6m	3.3
支柱パイプ	L=700	ZTP 0.7m	3.9
支柱パイプ	L=750	ZTP 0.75m	4.1
支柱パイプ	L=800	ZTP 0.8m	4.4
支柱パイプ	L=900	ZTP 0.9m	5.0
支柱パイプ	L=1000	ZTP 1.0m	5.5
支柱パイプ	L=1100	ZTP 1.1m	6.1
支柱パイプ	L=1200	ZTP 1.2m	6.6
支柱パイプ	L=1300	ZTP 1.3m	7.2
支柱パイプ	L=1400	ZTP 1.4m	7.7
支柱パイプ	L=1500	ZTP 1.5m	8.3
支柱パイプ	L=1600	ZTP 1.6m	8.8
支柱パイプ	L=1700	ZTP 1.7m	9.4
支柱パイプ	L=1800	ZTP 1.8m	9.9
支柱パイプ	L=1900	ZTP 1.9m	10.5
支柱パイプ	L=2000	ZTP 2.0m	11.0
支柱パイプ	L=2100	ZTP 2.1m	11.6
支柱パイプ	L=2200	ZTP 2.2m	12.1
支柱パイプ	L=2300	ZTP 2.3m	12.9
支柱パイプ	L=2400	ZTP 2.4m	13.2
支柱パイプ	L=2500	ZTP 2.5m	13.8
支柱パイプ	L=2600	ZTP 2.6m	14.3
支柱パイプ	L=2700	ZTP 2.7m	14.9
支柱パイプ	L=2900	ZTP 2.9m	16.0
支柱パイプ	L=4000	ZTP 4.0m	22.0

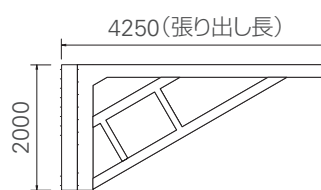


現場手配部材

ASブラケット

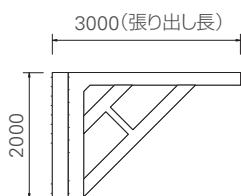
資材名	単重(kg)
ASブラケット I	500.6
ASブラケット II	569.2
ASブラケット IIaト	103.0
ASブラケット IIbト	116.4
ASブラケット IIabレ	106.3
ASブラケット H150-716	25.8
ASブラケット H150-4500	143.4
ASブラケット H150-2000	65.7
ASブラケット H200-232(サイコロ)	17.5
ASブラケット C-1(H250 L=2000)	209.2
ASブラケット C-2(H250 L=1000)	95.2
ASブラケット 45-2000	217.3
ASブラケット 45-1000	114.3

ASBII型



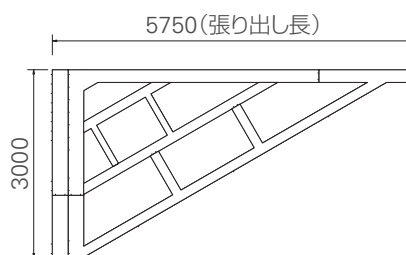
単重:611kg(820kg)
 *()内はC-1まで含む重量

ASBI型



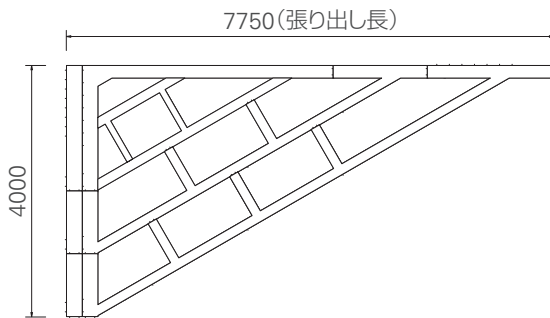
単重:531kg(740kg)
 *()内はC-1まで含む重量

ASBII型+a



単重:1,020kg(1,325kg)
 *()内はC-1・C-2まで含む重量

ASBⅡ型+ab



単重:1,550kg(1,950kg)

* ()内はC-1・C-2まで含む重量

OBトラス

資材名	形式・寸法	資材コード	単重 (kg)
OB バタ (100) 角締穴なし	L=3000	OB 3.0m	65.0
OB バタ (100) 角締穴なし	L=2000	OB 2.0m	43.9
OB バタ (100) 角締穴なし	L=1800	OB 1.8m	41.4
OB バタ (100) 角締穴なし	L=1500	OB 1.5m	33.4
OB バタ (100) 角締穴なし	L=1200	OB 1.2m	27.8
OB バタ (100) 角締穴なし	L=1000	OB 1.0m	23.2
OB バタ (100) 角締穴なし	L=900	OB 0.9m	20.1
OB バタ (100) 角締穴なし	L=750	OB 0.75m	18.0
OB バタ (100) 角締穴なし	L=600	OB 0.6m	14.0

資材名	形式・寸法	資材コード	単重 (kg)
OB バタ (100) 角締穴なし	L=500	OB 0.5m	12.8
OB バタ (100) 角締穴なし	L=400	OB 0.4m	11.5
OB バタ (100) 角締穴なし	L=320	OB 0.32m	10.0
OB バタ (100) 角締穴なし	L=300	OB 0.3m	9.5
OB バタ (100) 角締穴なし	L=250	OB 0.25m	8.0
OB バタ (100) 角締穴なし	L=200	OB 0.2m	7.0
OB バタ (100) 角締穴なし	L=150	OB 0.15m	6.0
OB バタ (100) 角締穴なし	L=100	OB 0.1m	5.0

弁慶 BENKEI

ステンレス柱型枠

COST削減

転用率が高い

ステンレス面板の使用により、劣化が少なく転用率をUPすることが可能です。

木製型枠を併用することでコスト削減に

転用回数の少ない異形型枠（1柱のみドレン形状が違うなど）の場合木製型枠を組み合わせることによりコスト削減になります。

躯体精度UP

ノンセパで施工可能

ノンセパ工法により、セパ・Pコン・釘打ち跡のない躯体を打設可能となり、左官補修不要です。

コーナー部一体成型型枠を使用

コーナー型枠は一体成型のため、面木が不要です。これにより砂目地の発生が減少、面木のズレ・外れリスクがゼロになり補修作業が大幅に軽減されます。

工期短縮

施工がスムーズ

組立・脱型が速く、脱型後すぐに次工区のセットが可能です。

少人数で施工可能

熟練作業者に頼ることなく、少人数で施工が可能です。

工程管理がしやすくなる

4サイクル(型枠建込み→コンクリート打設→養生→脱型・盛替)で行うことで、工程を管理でき、工期短縮になります。



ステンレス柱型枠の流れと強み

1. コーナー部一体成型型枠

一体成型コーナーにより面木不要

コーナー部一体成型型枠を使用

コーナー型枠は一体成型のため、面木が不要です。これにより砂目地の発生が減少、面木のズレ・外れリスクがゼロになり補修作業が大幅に軽減されます。

ステンレス面板により転用が無制限

ステンレス面板の使用により、劣化が少ないため転用回数の多い現場に適しています。

リブ厚72mmのため、木製型枠と併用が容易

従来の鋼製型枠のリブの厚みは55mmですが、ステンメタル72ではリブの厚み72mmを採用しているため、木製型枠と併用時バタ材側もしくは型枠側に加工の必要がなく容易に取り付け可能になります。



ステンレス型枠 脱型直後

木製型枠+面木 脱型直後

2. 角締め

コーナー金具とタイロットで直角に

コーナー金具とタイロットで直角を確保

コーナー金具により地組時に直角を確保し、L字型枠同士の合わせ角をタイロットで固定することにより直角を確保できます。

角をタイロットで締め込むことにより緩みがない

角をタイロットで締め込むことにより振動に強く、パイプレーターによる型枠の緩みが発生しません。

歪み補正作業が大幅に軽減

L字大判2枚を緊結した段階でほぼ設計値の四角形が完成。そのため熟練工が必要となる手間の掛かる工程がなくなります。



3. 建ち直し

歪みがなく、建ち直しが容易

建ち直しが容易

四隅をコーナー金具、タイロットで固定することで直角が確保され、面板の歪みもないため建ち直しが容易にできます。

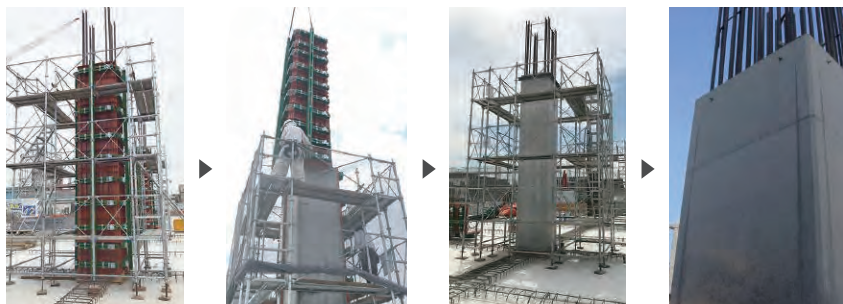


4. 仕上がり

セパ・Pコン・釘打ち跡がなく補修不要

高品質な仕上がりに

面板にステンレス（SUS430）を使用しているため、劣化が少なく転用回数を選びません。また、整備においては従来のようにサンドブラスト作業をしないため、表面にざらつきがなく、綺麗な仕上がりとなります。



脱型後の清掃も楽々

脱型後モップで清掃し、剥離剤を塗布するだけで2回目の転用に使用可能となります。



脱型直後

清掃+剥離剤塗布

2回目 使用可能

S造柱 根巻用 移動システム

省力化

専用の車輪を取り付けるだけで、1L字面板を2人で楽に移動でき省力化可能です。

ノンセパ

ステンレス柱型枠同様セパなしで施工可能となり、セパ・Pコン・釘打ち跡のない躯体を打設可能となり、左官補修不要です。

振れ止め

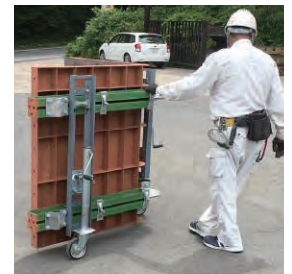
専用の振れ止め金具を使用することで、打設時も型枠のズレを防止することが可能です。



横バタにキャスター付きジャッキを取付け

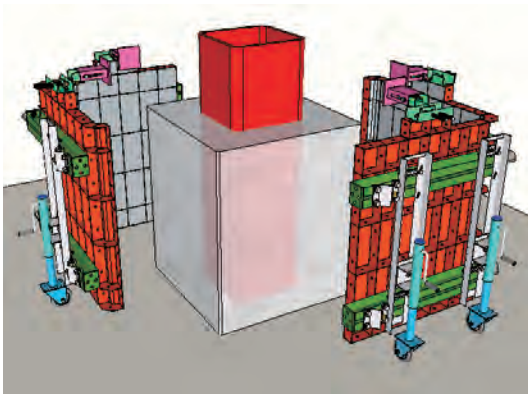


片手で容易にジャッキアップが可能



移動・回転もスムーズ

S造柱 根巻用 移動システム + 振れ止め金具



簡単移動

回転自在なゴム車輪を採用することにより、スムーズな移動が可能

耐荷重

車輪1本当たり128kgの耐荷重

サイズ対応

振れ止め金具は稼動域を広くすることにより、様々なサイズの柱に対応可能

車輪取付け

横バタに爪をかけボルトで固定するだけで取付け可能

取付け簡単

振れ止め金具は型枠の上にセットしボルトで締め込むだけで取付け可能

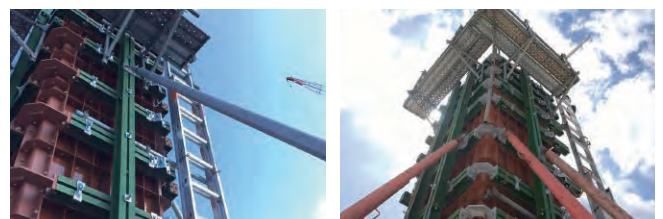
打設ズレ防止

振れ止め用専用金具を使用し打設時の型枠ズレを防止

圧入打設計画にも対応可能



打設用ブラケット足場取付可能



コンクリート構造物にあわせた 型枠、足場支保工の設計・施工を 当社の提案型営業でトータルにマネージメント。

ステンレス型枠材を中心に湾曲した構造物を施工するための特殊な鋼製型枠材を得意とし、高い技術開発で海洋土木・港湾分野への施工実績も多く、防潮堤建設工事など東北地域の復興工事にも尽力しました。全国の施工実績も多く、ノウハウとシナジーを発揮できる土木分野の仮設ソリューションを得意とします。



グループネットワーク

商号	株式会社トータル都市整備
本社・東日本営業部	〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-10-5 オンワードパークビルディング T 03. 3276. 3930 F 03. 3276. 3931
西日本営業部	〒530-0011 大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 タワー B27 階 T 06. 6375. 7200 F 06. 6375. 7227
シールド営業部	〒451-0051 名古屋市西区則武新町 3 丁目 1-17 BiZrium 名古屋 5 階 T 052. 485. 8227 F 052. 485. 8228
事業内容	土木・建築用仮設機材（足場、型枠、支保工材、軌条材）の販売およびレンタル



タカミヤグループ全国20ヶ所以上の支店・営業所
約30箇所の機材センターから出荷・対応いたします。
弊社ウェブサイトの事業所一覧をご覧ください。



株式会社トータル都市整備

本社 東京都中央区日本橋 3-10-5 オンワードパークビルディング 〒103-0027 T 03. 3276 3930



www.total-ts.jp

製品は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
ご使用に際しましては、取扱説明書を必ずお読みください。